

(4) 特別支援教育研究会（特別支援学級）

会 長 永野 恵理香（中筋小学校）
副会長 久米田 真衣（中村西中学校）
事務局 広井 あかね（東山小学校）
松本 尚子（東山小学校）

1. 研究主題「特別な支援を必要とする子どもたちがいきいきと学べる授業づくり」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和5年 5月9日（火）	四万十市教育研究会 組織総会 内容：役員選出、研究主題設定、年間計画	中村中学校	29名参加
6月1日（木）	第1回 サークル連絡協議会	四万十市教育 研究所	
8月4日（金）	四万十市教育研究会 夏季研修会 内容：講話、協議 「子どもの行動の背景を読み解く眼をもとう」 講師：山本 洋平（高知若草特別支援学校） 日程： 8:50～10:20 講話 10:35～10:55 グループ協議 10:55～11:20 質疑応答	中村西中学校 1年1組教室	29名参加

3. 夏季研修会

組織総会の際、会員の先生方から自立活動についての困り感が多く挙がっていたため、高知県立高知若草特別支援学校より山本洋平先生を講師として迎え、「子どもの行動の背景を読み解く眼をもとう」という演題でご講話いただいた。

講話では、自立活動を組み立てるうえで最も重要なことが実態把握であり、それを抜きにしてすぐにできる技法に頼ってしまうと、本当にその子にあった支援や指導ができず「熱心な無理解者」となると教えていただいた。そのために何より大切なのが、事例検討を深め「子どもから学ぶ」ことであるそうだ。私たち指導者は、つい子どもの問題行動を見て、やる気がない等と意欲の問題にすり替えてしまうが、山本先生は、「その行動の背景には発達課題が隠れていることが多く、例えば、教師の話の聞かずマイペースで時間を守らない子どもの背景として、ワーキングメモリの弱さが一因の可能性もある。また、教室から飛び出したりトラブルが絶えなかったりする子どもは、触覚や前庭覚、固有覚につまずきがある可能性もある」とおっしゃっていた。自分たちが思いも寄らなかった背景があることが理解できた。

後半は、4名ずつのグループに分かれて講話についての質問や感想、日頃の自立活動の実践について協議を行った。その後、グループ協議で出た質問について山本先生にお答えいただいた。特別支援学級の児童生徒の進路指導や、支援や指導がうまくいかない時のメンタルの持ち方などについて教えていただいた。

2学期に向けて自立活動の計画を立て直すうえで、夏季研修会で子どもの実態把握の根本に関わるお話を聞くことができ、また、それぞれの先生方の実践交流ができたことで、大変有意義な会となった。

4. 今年度の成果と課題

(成果)

- 自分の見方・考え方を見直すよい機会となった。感覚による個々の違いを具体的に学ぶことができた。生徒の言動を「わがまま」の一言で片づけずに、冰山モデルを通して生徒の言動の背景を考えていきたい。そのために仮説を立てながら生徒に寄り添った対応ができるように試行錯誤をしていきたい。
- 講師の先生の話聞いて、グループ協議をすることで、悩みを含め質問事項を更に聞くことができた。現場に居りながら、経験を踏まえて話を聞くことができたことや、自立活動をどのように組み立てたらよいか方法を教わることができ、2学期から実践に繋げられる内容だった。
- 山本先生のご講話が分かりやすく、児童の実態把握や本質に迫るために、児童の言動の裏側にある背景をしっかりと考えていくことの大切さが分かった。また、その方法として、事例を挙げながら「仮説立て」の方法を知ることができたのは、とても勉強になった。
- 事前にアンケートで困り感や質問内容が伝えられて、具体的に話し合いや講義内容に反映することができてよかった。今回の講演で子どもの行動を読み解く眼を具体的に知ることができ参考になった。
- 毎回、特別支援学級での教育課程や支援例など困り感が同じだと思う。子どもの実態把握に努められるよう、講演は、今回のような子どもの発達段階理解や支援方法を知ることができる内容がよい。

(課題)

- グループ協議の時間が短く、用意していたものの紹介もできず出し合い話で終わった。各学校の皆さんが、それぞれに悩みを持ちながら実践されていることが分かり励みにはなったが、せっかくの機会なので、講師の先生とのざっくばらんなQ&Aの時間を多くとってよかった。

～研修の様子～

